

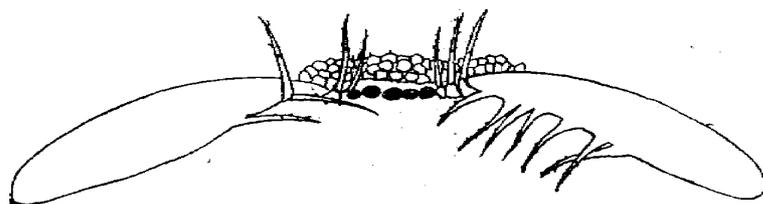


- 最終歩肢節の基節腺孔の内, 1 は小さく, 他と離れて遙かに後方に位置す. 腹面腺孔群は菱形を成す.  
 ♀の最終肢の基部の4小節の腹面には多くの短毛が密生する (第7圖) .....(2) *G. rhomboideus* n. sp.  
 4 基節腺孔の内, 後方の1箇は大形で, 他と甚しく離れず. 腹面腺孔群の形は前縁は直線状, 後縁は鈍角をなして出張り, 群内の腺孔数は甚だ少い. ♀の最終歩肢に前述の如き事がない .....(1) *G. sounkyoensis* n. sp.

次に各種の形態を略述する.

(1) *G. sounkyoensis* n. sp. ソウウンツチムカデ (新稱)

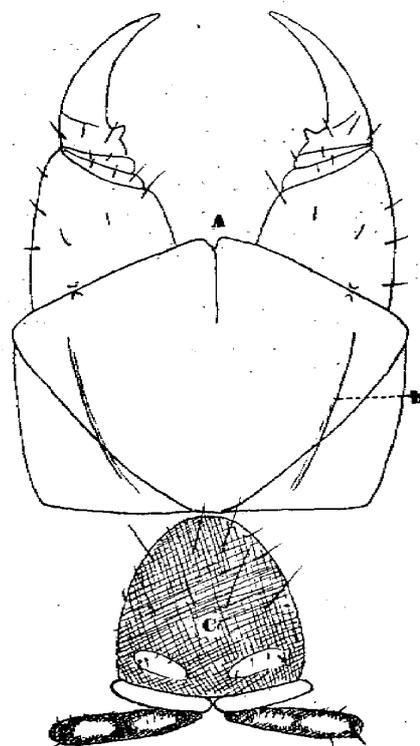
體長 40 mm, 歩肢對數 55♂ ~ 57♀, 體色黄, 前端稍褐,



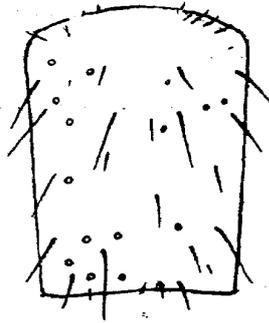
第1圖 ソウウンツチムカデの上唇 (×400)

前鞘の縦徑と横徑とは略同長, 觸角長し. 額板は全部一樣に網目を成し, 少數の刺毛を有す. 上唇の中央片には約5個の丸形の齒を列し, 側片はその中央に近い部分に少數の刺毛を列生し, その刺毛は多くの微小の尖

枝を有す. 第1小顎にはその端肢に1對の觸鬚を有するが, その基節にはそれを缺き, 或は僅に痕跡をとゞめるにすぎず. 第2小顎の爪は細長く, 附近の刺毛を越えて遙かに先方へ抽出す. 顎肢は頭の前縁を越えて前方に出ることがなく, Chitinlinien は短く, 基節の前縁には齒はなく, 爪の根に小形の1齒を付け, その内側は平滑である. 頸板は幅廣く, 次節の背板と横徑が等しい. 背板に2縦細溝があり, 刺毛が粗生す. 胸板には中央に縦の細い凹みと, 兩側に各1の凹縦線がある. 第3~18胸板の後縁の中央に後方に向つて1小突起があり, 又第5よりその前縁に沿うて横の凹みがある. この凹みはその最も發達した節では, その胸板の横幅の約 $\frac{3}{4}$ を占めて居る. かゝる胸板では胸板前部 (Prosternit) 及び胸板後部 (Metasternit) と胸板中部 (Mesosternit) との間に, それぞれ網目を成す細い一直線が劃然と境界をなし, 胸板後部の中央にはその胸板の幅の約 $\frac{1}{2}$ を占める腺孔群區域がある. この區域の前縁は一直線, 後縁は後方に鈍角を成して突出し, その内の腺孔は多きも2個, 少きは僅に數個に過ぎぬ. 併し腺孔は上の區域の他, 最終前節に至る總ての胸板面に廣く散在せられて居る. 各胸板には多くの長刺毛が略對を成して生ずる他, 甚く微小の尖毛が多く散在す. 又前胸板が二重になつて居る事が著しい (第2, 3圖). 最終歩肢節の胸板は甚だ廣く, 後方狭くなり, 後縁は略一直線を成し, 基節の腹面には, 中形又は大形の腺孔が6~8

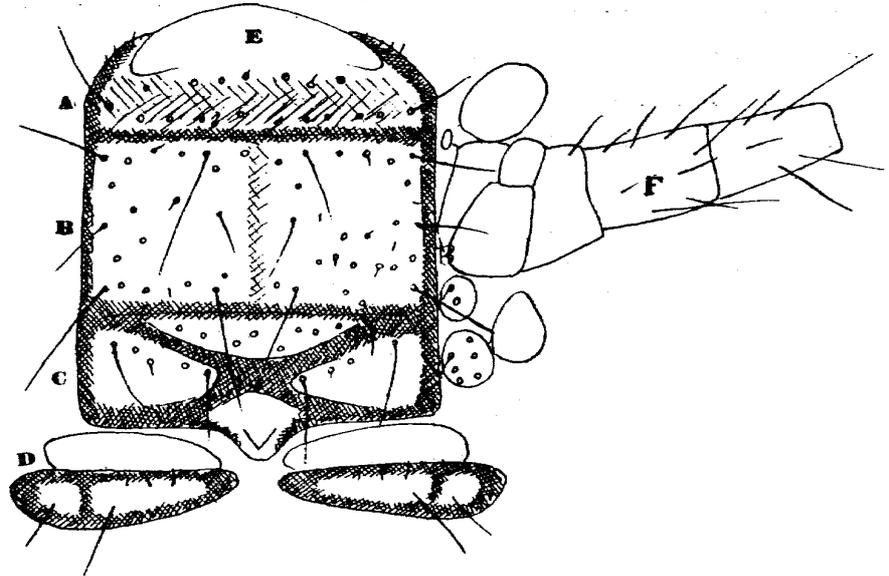


第2圖 ソウウンツチムカデ  
 A. 顎肢 (b. Chitinlinien.) C. 第1胸板; 多くの斜線を引いた部分は網目構造を示す



第4圖 ソウウンツチムカデの最終歩肢節の前節の胸板 (×60)

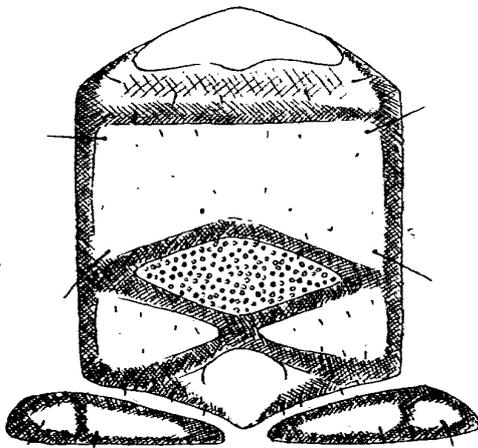
個開き, 大なる1個は遙かに後方に位置す。最終歩肢には爪があり, ♀の裏面に密毛を生ぜず。♂は不明。端孔はある。産地は北海道 (層雲峽)。



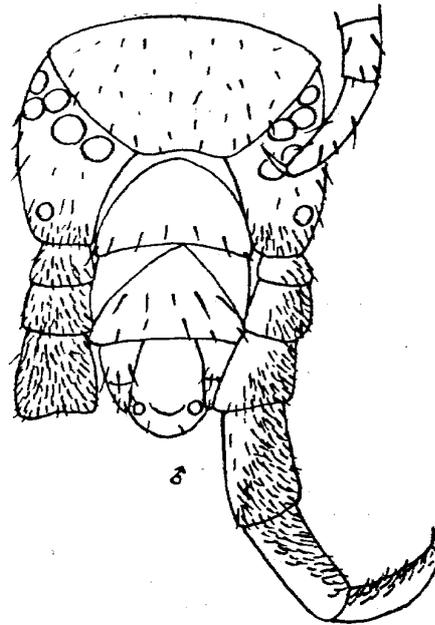
第3圖 ソウウンツチムカデの第8胸板 (×90) A. 胸板前部, B. 胸板中部, C. 胸板後部, D. 前胸板, E. 胸板前縁に沿うた凹み, F. 歩肢

(2) *G. rhomboideus* n. sp. ヒシツチムカデ (新種)

體長 30 mm まで, 歩肢對 43♂~49♀, 胸板前縁の横の凹みは第2—18に見られ, その大なるものでは, その胸板の幅の約 $\frac{3}{4}$ を占めて居る。腹面腺孔群區域は略第1—18胸板に存し, 前後に山形を成して突出し菱形を成し, その内に含まれる腺孔は第1胸板では5個, 第2胸板では14個位であるが, 次第に多くなり, 第9—15胸板で120個に達し, 以下又減少する。胸板には散在せる多くの小刺毛を生ずるが, その



第5圖 ヒシツチムカデの第9胸板 (×90)



第6圖 ヒシツチムカデ♂の體後端腹面 (×50)

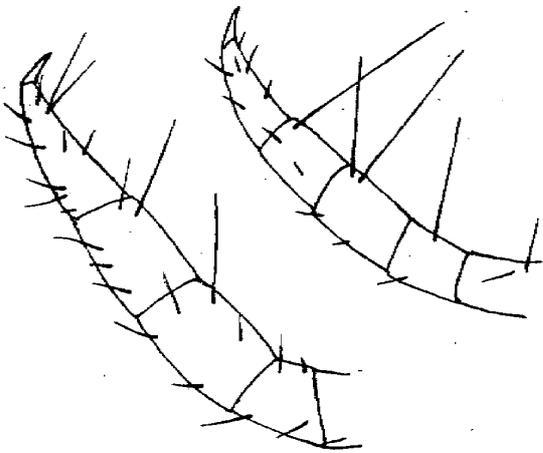


第7圖 ヒシツチムカデ♀の最終歩肢腹面 (×50)

両側に2本の長毛が對をなして居る。總ての歩肢に相當長い刺毛がある。最終歩肢節の基節には4~5個の大なる腺孔が胸板に接して開き、尙ほ1つの小さな腺孔が他と離れて遙に後方に存する。終肢は♂で稍太く、腹面に甚だ多くの短毛を密生し、♀では太くはないが基の4小節の腹面にやゝ多くの短毛を密布す。以上の他の形態はそれぞれ略 *G. sounkyoensis* に等しいから茲に略する。産地は樺太(泊居, 知取, 眞岡), 根室, 稚内。

(3) *G. longicapillatus* n. sp. ケナガツチムカデ (新稱)

體長 80 mm, 歩肢對 47♂~55♀, 頭鞘は略正方形, 少數の刺毛を生ず。觸角は絲狀で長い。上唇中央片に稍尖つた2~4の小齒を列し, 又刺毛を交ふ。第1小顎に2對の觸鬚があり,



第8圖 第4歩肢(×80) 右. ヒシツチムカデ,  
左. ケナガツチムカデ

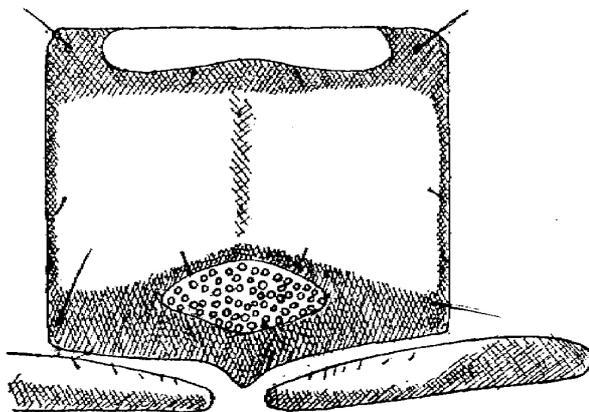
その基節に屬する1對は甚だ小。胸板前縁の横の凹みは第2—19胸板に見られ, 大なるものは胸板幅の $\frac{3}{8}$ を占めて居る。腺孔區域は第1より第20胸板に存し; その形状・位置・胸板網目の配置等は略 *G. rhomboideus* に等しいが, その区域内的の腺孔は多きは90個に達す。歩肢に少數の長い刺毛を生ずるが, 特に前方の歩肢では, その前腿節・腿節及び跗節の端に近い裏面に, その節の長徑よりも尙ほ遙かに長い1本又は2本の長毛を生じて居る。最終歩肢節の基節腺は4~7個, 大きく, 皆胸板縁に近く開孔し, 別に離れて存するものがない, 最終歩肢は *G.*

*rhomboideus* と同じく, その他の形態も皆略それと同じ。産地は淺虫。

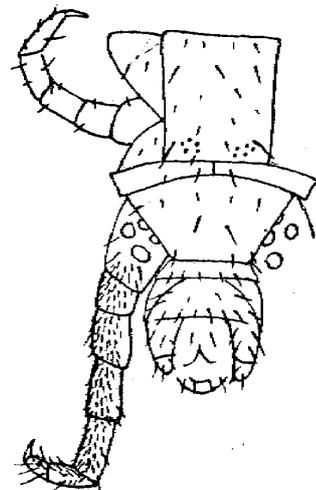
備考: 本動物は前記の如く, 曩に *G. proximus* として本誌にかゝげたものである。

(4) *G. bipartitus* n. sp. オタコツチムカデ(新稱)

體長 15mm, 歩肢對數 35♂~39♀, 頭鞘の縦徑は横徑より稍大。上唇中央片に2齒3毛。第



第9圖 オタコツチムカデの  
第9胸板(×200)



第10圖 オタコツチムカデの  
體の後端腹面(×80)

1 小顎に 1 對の觸鬚を具へ、その基節上には僅かにその痕跡を示す。第 2—10 胸板の前縁に沿うて横の凹みがあり、その大なるものは胸板幅の  $\frac{3}{5}$  を占める。第 1 胸板には中央に小圓形の腹面腺孔群區域を有し、内に數個の腺孔を含む。腺孔群區域は第 2 胸板より次第に後方に發達して菱形となり、その内に含まる腺孔の數も第 8—9 に至つて約 60 個に達するが、第 12 又は 13 節に於て再び小さくなり、第 14 に於て俄然分れて 1 對の小形の群となり、群内僅かに 5 腺孔を見るに過ぎぬ。而して第 15—16 に於て全く消滅す。尙ほ又最終胸板の前 3 胸板に於て、微小なる腺孔群が 1 對をなして現はれて居る。前胸板前部は凹みの部分の他、後胸板部は腺孔區域の他、胸板中部は兩側に沿ふ細線が網目を成して居る。胸板にはその兩側に 2 對の長刺毛ある他、少數の短毛が略對を成して生えて居る。最終基節には 4—6 個の大腺孔が胸板近くに開き、遙かに離れた腺孔がない。終肢は♂にては稍太く密毛を有するが、♀ではかゝることがない。その他の形態は皆略 *G. rhomboideus* と同じ。産地は樺太(敷香町オタコの森) (北緯 49.5°)。

備考：我國に産するデムカデ類を採つて、これが *Geophilus* 屬であるか否かを知るには大體脚が 35—60 對位で、頭の長さと同幅とが略等しく、大顎の縁には毛の列があるばかりで、齒や櫛毛がなく、頭の裏面、口の前部即ち額板部は一樣に網目を成し、特別な窓のやうな區域がなく、體の前部各節の腹面即ち胸板に腺孔群が存し、體末の歩肢の基節に幾つかの可成り大きな腺孔が別々に開いて居るといふ位の諸點を調べ、上記の檢索に依り更に記述事項に照すならば先づ大體それと知られるであらう。

(昭和 12 年 7 月 12 日受領)

本邦より未記録のミズマルトビムシ  
*Sminthurides aquaticus* (BOURLET)

(圖版 1 個)

Note on a Collembola, *Sminthurides aquaticus*  
(BOURLET), unknown to Japan

(One Plate)

内 田 一  
東京科學博物館  
Hajime UCHIDA

Tokyo Science Museum

Résumé

*Sminthurides aquaticus* (BOURLET, 1843) ミズマルトビムシ(新稱)

*Sminthurus aquaticus* BOURLET, 1843.—LUBBOCK, 1873.—OUDEMANS, 1887.